

二〇二六年四月四日

産土の古墳を囲む花菜畑
異国語の案内つぎつぎ花見船
シユプールの模様似たる蜷の道
病窓の眼下に街の花の雲
春宵の一人居の刻至福とす
花の雲より抽んでし天守閣
落椿無念ならずやうつ伏せに
諦めていた名札より名草の芽

二〇二六年四月三日

初燕軒から軒へ訪ふやうに
健気なる胴吹きもあり花万朶
白詰草ダイヤびかりす雨上がり
春嵐いなせる櫛大樹かな
コンセント差し忘れをり春炬燵
呂に律にまろぶ水音や春の苑
太陽に背な向けすすむ草取女
八重椿みな俯いて憂ひあり
鶯の声鳴き交はす三輪の山

二〇二六年四月二日

龍神に手向けのごとき落椿
遠山の褰埋め尽くす桜かな
潮待ちの港へ春の雨止まず
花万朶愛子妃生誕記念の樹
山桜明かりトンネル抜くる度

二〇二六年四月一日

桜舞ふ回廊絵巻さながらに
ツーリング給水タイム花菜畑
山腹の臍めく桜大樹かな
濡れそぼつ石の参道花の雨
老いの吾の歩みにも似し蜷の道
薄曇り山水画めく山桜
二〇二六年三月三十一日
里山の雨に滲みし山桜

二〇二六年三月三〇日

村興し休耕田みな花菜畑
赤き糸もて吊るされし縁起雛
春天にサーカスめきし電気工
受難週聖書棚にも春埃
春風に窓を全開ミシン踏む
ガードマン辞儀して迎ふ花の門

二〇二六年三月二十九日

うぐひすの声急磴を励ましぬ
さざ波に見え隠れせる花の影
隙間なく畦埋め尽くす踊子草
茶筌振る野点の髪へ落花かな
春堤ジョギング仲間おしゃべりす
昏れかぬる向かふ岸なる花明かり

そうけい
もとこ
せいじ
むべ
澄子
うつき
たか子
やよい
うつき

康子
そうけい
明日香
風民
うつき
みきえ
うつき
そうけい
康子
えいじ
せいじ
ぽんこ
うつき
そうけい
うつき
和繁
風民
ほたる
澄子

毎日句会みのる選・二〇二六年四月六日